

**英知を結集した原子力科学技術・人材育成推進事業
廃止措置研究・人材育成等強化プログラム
事後評価総合所見**

<p>研究課題名：マルチフェーズ型研究教育による分析技術者人材育成と廃炉措置を支援加速する難分析核種の即応的計測法の実用化に関する研究開発</p> <p>研究代表者（研究機関名）：高貝 慶隆（福島大学）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：亀尾 裕（日本原子力研究開発機構）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：古山 友美（福島県環境創造センター）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：押手 茂克（国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：古川 真（株式会社パーキンエルマージャパン）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：鈴木 勝彦（海洋研究開発機構）</p> <p>再委託先研究責任者（研究機関名）：蓼沼 克嘉（株式会社化研）</p> <p>研究期間：平成27年度～令和元年度（5年計画） 293百万円</p>	
項目	要 約
1. 研究の概要	<p>福島大学が提案するマルチフェーズ型研究教育プログラムにより、現場ニーズに直結した「分析人材育成と廃炉措置等支援者のための教育」及び「即応的な分析技術の開発」を実施する。他機関による学生の技術教育の実施と福島大学による実務層（幅広い年齢層）への実践教育を行い、多面的思考の養成と中長期的な持続性のある人材確保と、廃炉措置で直面している放射性ストロンチウム（Sr-90）を中心とする難分析核種の分析技術的な問題を解決するために、「質量分析に基づく分析技術の実用化研究」に関する研究開発を目的として、以下の人材育成と研究を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基礎教育 2) 質量分析に関する研究 3) 放射能計測に関する研究 4) 処理技術に関する研究 5) 研究推進
2. 総合評価	<div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="background-color: #cccccc; width: 30px; height: 30px; text-align: center; line-height: 30px; margin-right: 10px;">S</div> <ul style="list-style-type: none"> ・人材育成に関しては、他組織との連携体制を構築し、大学に廃炉に資する新たな教育プログラムを開設・常設科目とすることで、多数の学生が参加したという点で、地元の中核大学として目標を超える高い成果を挙げていると評価できる。 ・また、Sr-90の簡便・迅速な分析法を開発し、実際に東京電力福島第一原子力発電所の試料分析に取り入れられるなどの特筆すべき成果が創出されており、研究面でも高く評価できる。 </div> <ol style="list-style-type: none"> S) 特筆すべき優れた成果があげられている A) 優れた成果があげられている B) 相応の成果があげられている C) 部分的な成果に留まっている D) 成果がほとんどあげられていない